



「一般社団法人 群馬県介護支援専門員協会 定時総会」 が開催される



副会長 浅沼 郁子

一般社団法人に移行して一年、去る6月14日(土)、群馬県介護支援専門員協会は初の定時総会を迎えました。

この一年間、各専門部会はこれまで以上に充実した活動を展開し、また新規事業として、群馬県地域医療再生基金事業への取り組みが報告されました。

本年度の事業計画では、本会の目的とする「会員の資質向上」に係る活動を中心に、研修・情報提供・調査研究・関係機関との連携強化に向けた事業が提案されました。

決算報告及び予算案についても共に承認され、会員の団結の下、力強く一年のスタートを切りました。

決算報告及び予算案についても共に承認され、会員の団結の下、力強く一年のスタートを切りました。

記念講演 「家に帰ろう」

緩和ケア診療所・いっぽ 萬田 緑平 先生

萬田先生の講演を聴きながら胸が熱くなり涙が流れた。「家に帰ろう」と題し、家で亡くなること、看取りを先生の経験から言葉と映像で伝えられた。映像の中には、家族が亡くなった直後にもかかわらず、看取った家族は笑顔を見せている。悲しい別れのはずが、不思議と暖かい気持ちにさせられた。

医療に頼れば上手にいく訳でない、心が大事。病院で管を付け風呂に入れず、水も飲めずに過ごすのが幸せか？先生は「本人の好きなように生きればいい」「その人らしく生き抜く」と繰り返した。「家に帰りたい！」気持ちを家族に理解してもらうのは大変。私たちは本人の気持ちが分かるように家族を導かなければならない。導くことができ、現実を見つめ、より良く生きられた結果、家族は笑顔になった。



本人、家族の望みが合えばハッピーです。ケアマネ業務をしていて複雑な気持ちになるのは、ここがかみ合わないからかもしれない。萬田先生のケアマネ洗脳計画により、本人の思いを家族が理解できるように導く役割を担った。

社協松井田支所在宅介護事業センター 佐藤 真由子

特集 ケアマネジメント群馬フォーラム XI in 伊香保

「ケアマネジメント群馬フォーラムXI in 伊香保」を終えて



大会長 内田病院 田中 志子

「ケアマネ群馬フォーラムXI in 伊香保」は大成功の後に幕を閉じました。

まさに、実行委員とご参加くださいました全ての方々のお力の賜物と心より感謝申し上げます、感激の思いをお伝えしたいと思います。

折茂賢一郎会長から「次の大会長をお願いできる?」と軽く依頼をいただき、大先輩からのご依頼をお断りするわけもなく、こちらから軽い感じで「了解です」なんてお返事したのがちょうど一年くらい前。あれから毎月の会議、大変お世話になりました。実行委員の方々の団結無くして成功はありませんでした。

教育講演では、介護やケアマネジメントを大切にしている富家隆樹先生からユーモアを交え動画やイラストを駆使した楽しいご講演をいただきみんながやる気もらいました。

また、6つの事例検討会は、どのセッションも白熱した討議が繰り広げられ、アンケートの結果からも大好評であったことが分かりました。参加した方々の思い出に残るフォーラムになっていたら嬉しいです。本当にありがとうございました。

最後に副大会長の松本さん、実行委員長の佐藤さんに心より深謝申し上げます。お疲れ様でした。

「ケアマネジメント群馬フォーラムXI in 伊香保」を終えて

大会実行委員長 昭和村社会福祉協議会 佐藤 智昭

去る7月13日(日)「ケアマネジメント群馬フォーラムXI in 伊香保」を、居宅介護支援事業所を始め、特養や老健・有料老人ホーム等のケアマネ約200名の方々に参加をいただき無事終了することができました。

昨年9月に前回フォーラムが終了した後、10月より月1回のペースで実行委員会を開催しながら準備を進めてきました。日常の業務に加えてのことなので大変ではありましたが、フォーラムの大成功という一つの目標に向かって、県協会や実行委員の皆さまと一緒に活動でき充実した期間を過ごせたと感じています。参加して頂いた方々、県協会や実行委員の皆さま本当にありがとうございました。

「頑張れ、ケアマネ！ ～明るい気持ちになろう、ライジングサン～」

医療法人社団富家会 富家病院 理事長 富家 隆樹 先生

座長 田中 志子 氏

今回の富家先生の講演内容を振り返ってみると私にとっては気づきという収穫をたくさん得る事ができた大変貴重な体験になったと思います。富家先生のユーモアを交えながらどこか気持ちが前向きになれて、元気をいただける話しは、聞いているうちに時が経つのを忘れ、気づいた時には、いつの間にか講演時間が終わってしまっていた。そんな気さえしました。講演が終わった後、ポジティブな思考になれ、一旦自分自身の姿勢を正し、明日以降のケアマネ業務に戻れると感じた参加者の方々は私以外にも大勢いらっしゃったのではないのでしょうか。



講演の中でも特に重要なポイントだったと思われる「ナラティブ」というキーワード。ケアマネジャーが利用者様に会おうきっかけは利用者様に何かしらの障害が残り、介護支援が必要になってからのケースがほとんどです。その為、その方が支援を要するまでの今までの人生をどのような価値観を持って、何を大事にして、どのように過ごしてきたのか、その実際を私達は見ていません。ケアマネジャーとして支援を開始するのにあたって介護が必要になってからの状態、それだけを見て、その方の支援はどのような介護が必要なのかという視点でしか計画を作れていない。そんな事はないのでしょうか。



今回の講演において、ケアマネジャーが支援を展開していく上で重要な点として、まず利用者様が今までどのように生きてきたのかという物語(ナラティブ)を知るという事。そして、支援が必要になってからも人生の最終章において引き続きどのように生きていきたいのかを知り、その為に必要なものは何かを考えるという事。利用者様の今までの物語を知り、これからの物語を共に考え、共に計画していく。そんな姿勢がケアマネジャーには求められているのだ

と今回の講演の中で実感する事ができたのは私にとっては大変大きな収穫になったと思います。

現在の日本において、要介護者は増加の一途を辿っており、社会保障費が切迫している状況の中で、今後、ケアマネジャーは地域包括ケアシステムの連携等においても重要な役割を担う事になると想定されています。これまで以上にケアマネジャーは多方面から大変なプレッシャーを受け続ける事になるでしょう。しかし、それは社会がケアマネジャーへ求める期待の大きさを示しているとも言え、その期待に応える為にケアマネジャーが頑張れば、利用者様、ご家族、地域の幸せに繋がっていくのではないのでしょうか。そして、それは大変名誉な事だと思えます。

富家先生、今回は大変貴重な講演を聞かせて下さり、本当にありがとうございました。

居宅介護支援事業所こかげ 古島 隆矢

「明日から活かせる！泌尿器疾患よもやま話」

日高病院泌尿器科 主任医長 福間 裕二 先生
座長 大沢 誠 氏



ケアマネジメントにおけるアセスメントでは排尿状態の確認は必須事項である。また泌尿器疾患は、在宅や施設介護で対処に苦慮することの一つでもある。

セミナーでは、頻尿、残尿感、排尿時痛等から排尿記録の活かし方、膀胱炎治療における漢方薬について、また、生命に関わる尿路感染としての結石性腎盂腎炎が最近増加傾向にあることなどを丁寧に説明いただいた。尿管結石の生活指導や積極的治療方法、前立腺肥大症の最新の手術方法を動画で視聴させていただき、日帰り手術も可能になりつつあり、患者負担の軽減になっているという。

高齢者の排泄の維持が個人の尊厳やQOLに大きく関わるため、ケアマネジャーとしては排泄に関する知識の向上も大切である。機能低下を諦めず前向きに治療することで、その人らしい生活が送れるような援助に繋がっていききたい。

ゆたか居宅介護支援事業所 島田 幸治

「高齢者と消化器疾患」

原町赤十字病院 消化器科 副部長 田中 秀典 先生
座長 高田 勢子 氏



逆流性食道炎、消炎鎮痛剤による出血性胃潰瘍、C型肝炎、胆のう胆管疾患の胆石症、急性膵炎、大腸憩室症、虚血性腸炎、高齢者に多いこれらの疾患は、このセミナーを受けるまでは加齢によるものと思っていました。

しかし、消化器系の臓器は他の臓器と比べると加齢による影響を受けにくく、消化管運動機能の低下や外分泌機能の低下に関連して疾患が起こるのだそうです。

それぞれの疾患の実際の症例について、患者が訴える症状、病態、どのような検査を行い、どのような処置治療を施すか、また、その予防法に至るまで、もっともっと聞き続けたい内容の濃いセミナーでした。

消化器系の臓器を守るためには、バランスの良い食事が大切で、高コレステロール・脂肪の多い食事を避け、食物繊維の多いものの摂取を心がけること、これが共通する予防だそうです。高齢者のピンク色の消化器系臓器画像は若い時のままの色・・・と驚きました。

吉岡町地域包括支援センター 前原 芳実

セッション① 事例検討会「野中方式入門編」

進行：安藤 繁 氏（学術研修委員長）

野中方式による事例検討会は過去何回か参加しましたが、基本をもう1度再確認しようと思い入門編を選択しました。はじめに今日の事例検討会は「体験学習会」としての位置づけとのことでした。まず演習のプロセスやその意義についてのレクチャーがありました。その中で重要なことはケアマネジメントには①技術、②制度の2つ側面があり今後はより技術としてのケアマネジメントが重要になると説明されました。その後



事例提供者によるプレゼンテーションがあり事例検討会に入りました。見立てと手立てについて参加者の意見がだされ、それぞれ検討しながら中身が整理されていきました。今回の研修で再度認識したことは、我々の仕事は人間の現実生活に密接な事柄を扱い対象とすることである、技術も小手先のものではなく、学問的に裏づけられた理論・原理、技術が整っていることの大切さを痛感しました。

涌永接骨院 涌永 猛

セッション② 事例検討会「野中方式実践編」

進行：坂井 崇 氏（前橋川原ケースマネジメント）
村山 真理子 氏（かがやきケアサービス）
柴崎 武紀 氏（愛老園居宅介護支援事業所）

故・野中猛先生の言わずと知れた「野中方式事例検討会」は、まず事例提供者から事例概要を説明します。ファシリテーターは、参加者と事例提供者の間をつなぎ、これらの内容をホワイトボードに図などを用いて整理し記載、ファシリテーターは、今後の支援展開で必要な視点を参加者に問いかけ、支援方法を具体化してプランニングします。

野中方式事例検討会の良いところは、ホワイトボードを使い見立て（アセスメント）を行い全員で事例のイメージを作ることができ、みんなで手立て（プランニング）を出し合えることです。参加する方の基礎資格や所属の属性によって、「ポイント」が異なります。ポイントが異なることで、一人の方の状況をいろいろな角度からつかむことができ、新しい発見や支援方法を考えるうえでのヒントが見つかる可能性が



高まります。経験の長い参加者には、アセスメントの重要性を再確認することになり、経験の少ない参加者にとっては、対象の理解を深めるアセスメントへの気づきになりました。事例検討会などのグループワークを通じてカンファレンスを体験的に身につけていくことやディスカッションする技術を身につけていく演習を重ねることが必要と思いました。

希望館居宅介護支援事業所 石井 純子

セッション③ 事例検討会「見える事例検討会」

進行：平林 久幸 氏（わたらせリバーサードクリニック）
 顚原 禎人 氏（東毛敬愛病院）
 渡辺 幸恵 氏（桐生市北地域包括支援センター）
 木村 竜樹 氏（特別養護老人ホームげんき倶楽部）

桐生で実施している「見える検討会」に以前から興味をもっていた。なぜなら、8本のランチからなる樹系図はいったいなんだろうと興味を引いていたからです。今回参加して感じたことは6点です。

1. 参加者によってマップが変化していくこと。
2. 参加者全員が支援者に対してのプロセスを一緒に考え、全員で考えていくこと。
3. 見えてこなかった課題を見つけ、優先順位を考えていくこと。
4. 事例提供者がすぐ、できる支援を見つけていたこと。
5. ケアマネがどの順序で誰と連携をとるか、どのタイミングで連携をとるかを決めていたこと。
6. 利用者を尊重し、全員でどうにか問題を解決していこうという強い気持ちを感じた。



以上の6点を考え検討していくことは、事例提供者はもちろん、参加した全員の頭がスッキリして、後ろ向きだった支援者も前向きに考えられるようになるのではないかと思った。やはり、折茂会長のあいさつの中で話して下さっていた。「結果よりもプロセスを大切にしていこう。」という言葉大切に考えていきたいと、今回の見える事例検討会に参加して強く感じました。

青梨訪問看護ステーション 関根 京子

セッション④ 事例検討会「老健 I C F 方式」

進行：新井 健五 氏（理事）

老健に於いて、新人ケアマネとして歩み初めて、まだ半年にも満たない私ですが、今回のフォーラムの中で I C F 方式を学びたいと思った理由は、ひとりの人が抱える様々な問題をいろいろな角度から見つめ、情報を整理する基礎力を身に付けたいと思ったからです。

冒頭に新井先生の「ケアプランが治療計画になりがちである。」というお話から、私のこれまでの看護経



験から、ケアプランが看護計画に偏ってはいないかと振り返る事が出来ました。一つの変化からその人の可能性を広げる事ができるように、情報を引き出す力を持ち、その人の望む暮らしのあり方を考えていきたいと思えます。また他施設の方々と意見を交わす事ができた時間はとても有意義な時間となりました。

中之条町介護老人保健施設 六合つつじ荘 重田 由美子

セッション⑤ 事例検討会「特養ひもときシート方式」

進行：河村 俊一 氏 (ユートピア広沢)

「ひもとき」という魅力的な言葉に引かれて参加させていただきました。前半はひもときシートの概要をわかりやすく解説していただき、後半は事例に基づいてシートの記入を体験しました。

援助者が感じている課題について、「～なんじゃないのかなあ？」と8つの視点で多様な事実や解釈を共有していく内に、課題の背景や原因が整理・分析でき、さらに課題を利用者の立場（主語は〇〇さん）に



置き換えて解決方法を検討することによって、利用者が主人公のケアプランや介護実践に結び付いていくことを学びました。

このひもときシートは、アセスメントやカンファレンスのツールとしても活用でき、自分たちのスキルアップにも効果的とのことなので、今後の業務に活かしていきたいと思います。

前橋市地域包括支援センター城南 菊地 恒夫

セッション⑥ 事例検討会「気づきの事例検討」

進行：古里 悦子 氏 (宮城の里)
中沢 かよ子 氏 (理事)



アイスブレイクの「参加者1人1人の名前の由来」と「好きな色」を交えての自己紹介（由来や好きなことを話す際の表情や口調を感じてもらうため）で幕を開け、ロールプレイを踏まえて「コミュニケーションが困難な利用者への対応」事例に参加者全員が意見を出し合いました。議論を通じて事例の本質が見えてきた時、「事例提供者」の表情が「ハッ」と気づいた顔となり、見る見る笑顔で声のトーンが上がって行くと

拍手と歓声が自然と巻き起こり、素敵な時間を共有することができました。

講義を通してスーパーバイズをしてくださった講師の方のおかげで、参加者全員が「何かしらの気づき」を得て、自身の業務に活かせるお土産を持ち帰ることができ、私は「周囲の情報で利用者像を作らず自身で得た情報を元に、訴えの裏に潜むニーズを汲み取って支援を行う」決意がお土産となりました。

内田居宅介護支援事業所 岡島 真実

セッション⑦ 事例検討会「いつでもどこでもできる共に学ぶ事例検討」

進行：山田 圭子氏(理事)



この事例検討の手法は、山田圭子講師が所属する前橋市地域包括支援センター西部で実際行われているもので資料がなくても事例検討ができ、決まったスタイルがないということが特徴です。

今回は、太田市さくら介護支援サービスセンター恩田奈津江氏が提供された「認知症の進行、幼子を抱える家族による介護の支援について」と題した事例をもとに20余名の様々な専門職が事例検討に参加しました。それぞれの立場から意見発表があり、中には専門職の枠を超えた男性視点、女性視点からの意見もありました。仕事と育児を両立された経験のある女性参加者からは幅広い見識のもと事例登場人物の心理を読みとる意見発表がありとても印象的でした。

また、フォーマルサービスだけではなく地域力にも目を向けた意見発表をする参加者の姿も見られました。

進行役の山田講師が上手に場の雰囲気や事例検討会をコントロールしてくださったため円滑に検討会が進みました。今後、地域で事例検討をする役を担うケアマネジャーは大変、参考になったかと思えます。

最後のまとめでは恩田氏から、この事例を進めるにあたり壁にあたったこともあったが、様々な角度から事例を見直すことができ今後の支援に光明を見いだすことができたと思えたと挨拶がありました。

事前の準備から当日に至るまでご尽力された、山田圭子講師、恩田奈津江氏には感謝申し上げます。

ケアサービス鶴谷 竹内 宗之祐

セッション⑧ ケアマネ座談会「しゃべり場 Vol. 5」

進行：松沢 斉氏

11名の方が参加された「座談会しゃべり場」。松沢講師のもと和やかな雰囲気の中で進められました。しゃべり場にはルールが2つありました。1つ目は、積極的に参加して自分の言葉を伝える。2つ目は、相手の意見を最後まで聞くということです。これは、松沢講師が座談会と称して私たちに相談援助トレーニングを行ってくれているのだと驚きました。私たちの仕事で1番大切な事は、より良い人間関係を築くことです。自分の気持ちや考えを相手に伝えるが、相手のことも配慮することで自分も相手も大切にすることができる。そして、お互いが歩み寄って一番いい妥協点を探っていく。その部分を今回のセッションを通じて学ぶことができました。これを糧に、利用者とかケアマネジャー相互で、こみあげてくる想いを伝えあえる関係性を築いて行きたいと思えます。



清流の郷 森田 将義

編集

後記

今回の会報は、定時総会報告とフォーラム特集号ということで内容の濃いものになりました。会報を作成するにあたり写真撮影をしてくださった方、原稿を書いてくださった方々には感謝申し上げます。

ケアマネフォーラム特集ですが、とにかく元気のあるフォーラムでしたね。参加された方は会報をみながらフォーラムの余韻を楽しんでください。都合で参加が叶わなかった方は紙面から伝わるフォーラムのパワーを感じてみてください。そして来年のフォーラムを楽しみにしてください。(S・T)